

文化史と距離空間による空間形態の解析 —ウィーン旧市街地のカフェハウスを事例に—

宇野研究室

4105085 森元 貴之

1. 提起

1-1. 背景

ウィーンを代表するものとして音楽とともに名高いカフェハウスという空間が人々の生活において拠点としての役割を担っており、カフェハウスはウィーン特有の空間を形成し、この地から輩出された多くの知識人・芸術家はみな一蹶にこのカフェハウスという場で自らを高めていった。そのため、ウィーンのカフェハウスは日本やその他の国の都市とは違い都市空間、さらに政治に対し強い影響力を持って存在してきたため、カフェハウスは幾何学的でなくその土地に根付いた状態が発展してきた。しかし近年では STARBUCKS COFFEE や McDonald's などフランチャイズのカフェハウスの進出によりかつてのウィーンのカフェハウスとは違う、いわば「非ウィーン化⁽¹⁾」の様相を呈しつつある。

1-2. 目的

このカフェハウスの空間形態において、文化史⁽²⁾からの分析と距離空間⁽³⁾からの分析を行い、カフェハウスの形態の「非ウィーン化」について解析を行う。

1-3. 対象空間

現在ウィーン市内には 2000 以上のカフェハウスがあると言われて⁽⁴⁾いる。本研究ではそうした多数のカフェハウスの中

で、旧市街地(図1)にあるものに限り、地図⁽⁵⁾に記載されている歩行可能な道(全長距離約 30km)において調査を行い⁽⁶⁾得られた 107 のカフェハウス(表1)を対象に分析を行う。

2. ウィーンについて

2-1. 現況

かつてハプスブルク家の統治下で繁華を極めたウィーンは 1995 年からのオーストリアや周辺東欧諸国の EU 加盟により、中東欧の経済的中核都市として多くの国連関連施設や海外企業が郊外のニュータウンに進出し、多国籍国家として重要な核を担っている。

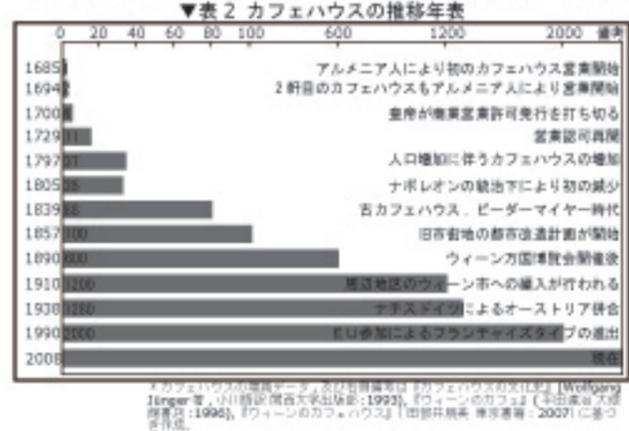
2-2. カフェハウス

ウィーンで始めてカフェハウスが開かれたのは 1685 年のことである。その後緩やかに増え続けたが、1873 年の万国博覧会の開催をきっかけに急速に増え、現在は 2000 以上⁽⁷⁾ものカフェハウスがウィーン市内に軒を連ねている(表2)。

3. 研究方法

3-1. 文化史として

代表的カフェハウスをあげ、ウィーンの都市構造・政治と



カフェハウスの関わりを明らかにし、ライフスタイルや周辺環境の変化が与えた影響によるカフェハウスの形態の変化について考察する。

3-2. 距離空間として

カフェハウスの分布図(図3)と、その分布図から作成されたポロノイ分割⁽⁸⁾により得られた図(図4)との比較により、都市形態の変化について分析する。

3-3. 比較研究

文化史からの分析と距離空間からの解析の両者の比較により、ウィーンのカフェハウスの形態が都市の形態変化に即してどのように変化してきたかを分析する。

4. 空間分析

4-1. 文化史からの分析

1995 年の EU 参加に契機にウィーン市内には海外から様々なものが取り入れられるようになり、ウィーンに暮らす人々のライフスタイルは更新されている。またウィーン市内には国連や EU の様々な機関が設置され、歴史的に完結していた都市の形態も変化を見せてきていることが判明した。カフェハウスにおいては、オフィスの進出が見られる旧市街地沿いのエリアには、働く人が休憩時間に来店することを促したフランチャイズ経営のカフェハウスの進出が目立ち、結果カフェハウスの形態に変化が見られた(図2)。それに対して古くから市街地の人々の生活の中心として栄え、ある程度空間が完結していた旧市街地中央のエリア(図2)ではライフスタイルや周辺環境の変化による影響は見られなかった。エリアによって大きな差があることが解明された(図2)。

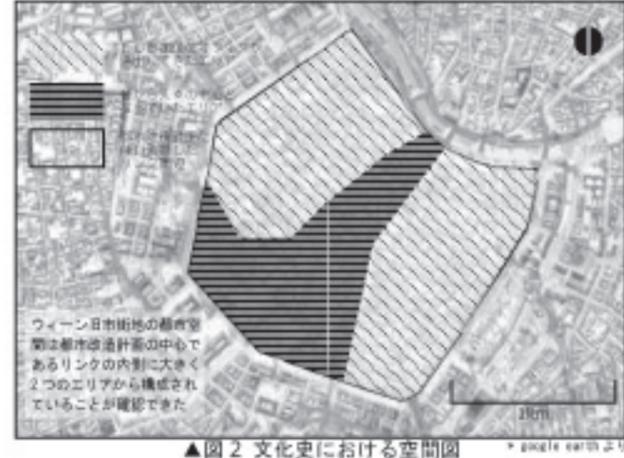
4-2. 距離空間からの分析

4-2-1. カフェハウスの分布図から見る空間分析

カフェハウスの分布図(図3)から、古くからあるカフェハウス(旧カフェハウス)は、主に王宮とシュテファン寺院を結んだエリアとそこからドナウ運河へと伸びる 2本の道(図3*1~4)、旧市街地沿い(図3*5)の 2つのエリアを中心として展開していた。それに対しフランチャイズのカフェハウス(新カフェハウス)は、旧市街地中に旧カフェハウスの間をぬるように、中央から旧市街地沿いに向かって広がるようにして点在していた。以上より、新カフェハウスの参入により旧市街地におけるカフェハウスは全体に均等に広がりを見せていることが明らかとなった。

4-2-2. ポロノイ分割による空間分析

新旧カフェハウスのポロノイ分割図(図4)の比較により、旧市街地両端のエリアでは占有領域⁽⁹⁾が均等化されてきているのを見て取れた(図4*1)。旧市街地中央のエリアは、



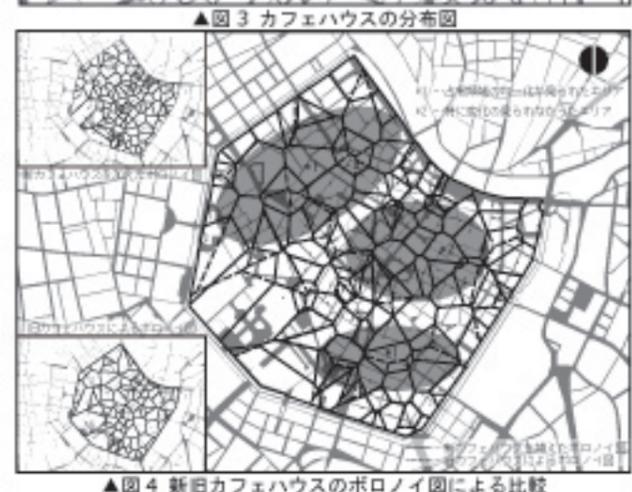
旧カフェハウスのポロノイ分割の時点である程度細かく均等な占有領域図が出来上がっていたため比較における変化は見られなかった(図4*2)。以上より、新カフェハウスの進出により全体の占有領域が均等化されてきていることが明らかとなった。

4-3-3. 比較分析

カフェハウスはもともと人々の生活との強い関わりを持ち、空間性をもって長年展開してきた。しかし 1995 年の EU 参加によりウィーンの周辺環境が劇的に変化したことが影響し、近年のカフェハウスがこれまでとは違い、ポロノイ分割による占有領域に均等化が見られるという変化が見取れた。そのため、近年ではかつてのカフェハウスとは違う幾何学的な展開をしてきていることが明らかとなった。

5. 結論

文化史と距離空間の両側面それぞれの分析により、都市の形態における旧市街地周辺からの影響力は強く、カフェハウスにおいては、自国を含む周辺諸国の EU の参加による大きな転換期があったことが明らかとなった。分布図そのものより行った分析とポロノイ分割を用いた解析による比較分析により、占有領域の均等化という変化が旧市街地沿いのエリアでは変化が見取れ、中央のエリアでは大きな変化は見取れないという結果が得られた。また両者の解析を比較統合した結果、転換期を迎えた後、フランチャイズの進出が急速に増え、ウィーンが持ち続けてきた他の都市とは違う特有の空間性が弱くなり、カフェハウスの形態が幾何学系の展開へと変化していることが明らかとなった。今回は新旧のカフェハウス同士での比較解析に限ったが、今後の課題としてはウィーンを代表する文化(劇場や教会)やウィーン以外の他都市との同様の比較研究を行うことで、都市の形態とカフェハウスの関係性についてさらに入り込んだ研究ができると考えられる。



▼表1 カフェハウスの分類一覧表

name	type	opened	photo
1	cafe	1700	1700年
2	cafe	1700	1700年
3	cafe	1700	1700年
4	cafe	1700	1700年
5	cafe	1700	1700年
6	cafe	1700	1700年
7	cafe	1700	1700年
8	cafe	1700	1700年
9	cafe	1700	1700年
10	cafe	1700	1700年
11	cafe	1700	1700年
12	cafe	1700	1700年
13	cafe	1700	1700年
14	cafe	1700	1700年
15	cafe	1700	1700年
16	cafe	1700	1700年
17	cafe	1700	1700年
18	cafe	1700	1700年
19	cafe	1700	1700年
20	cafe	1700	1700年
21	cafe	1700	1700年
22	cafe	1700	1700年
23	cafe	1700	1700年
24	cafe	1700	1700年
25	cafe	1700	1700年
26	cafe	1700	1700年
27	cafe	1700	1700年
28	cafe	1700	1700年
29	cafe	1700	1700年
30	cafe	1700	1700年
31	cafe	1700	1700年
32	cafe	1700	1700年
33	cafe	1700	1700年
34	cafe	1700	1700年
35	cafe	1700	1700年
36	cafe	1700	1700年
37	cafe	1700	1700年
38	cafe	1700	1700年
39	cafe	1700	1700年
40	cafe	1700	1700年
41	cafe	1700	1700年
42	cafe	1700	1700年
43	cafe	1700	1700年
44	cafe	1700	1700年
45	cafe	1700	1700年
46	cafe	1700	1700年
47	cafe	1700	1700年
48	cafe	1700	1700年
49	cafe	1700	1700年
50	cafe	1700	1700年
51	cafe	1700	1700年
52	cafe	1700	1700年
53	cafe	1700	1700年
54	cafe	1700	1700年
55	cafe	1700	1700年
56	cafe	1700	1700年
57	cafe	1700	1700年
58	cafe	1700	1700年
59	cafe	1700	1700年
60	cafe	1700	1700年
61	cafe	1700	1700年
62	cafe	1700	1700年
63	cafe	1700	1700年
64	cafe	1700	1700年
65	cafe	1700	1700年
66	cafe	1700	1700年
67	cafe	1700	1700年
68	cafe	1700	1700年
69	cafe	1700	1700年
70	cafe	1700	1700年
71	cafe	1700	1700年
72	cafe	1700	1700年
73	cafe	1700	1700年
74	cafe	1700	1700年
75	cafe	1700	1700年
76	cafe	1700	1700年
77	cafe	1700	1700年
78	cafe	1700	1700年
79	cafe	1700	1700年
80	cafe	1700	1700年
81	cafe	1700	1700年
82	cafe	1700	1700年
83	cafe	1700	1700年
84	cafe	1700	1700年
85	cafe	1700	1700年
86	cafe	1700	1700年
87	cafe	1700	1700年
88	cafe	1700	1700年
89	cafe	1700	1700年
90	cafe	1700	1700年
91	cafe	1700	1700年
92	cafe	1700	1700年
93	cafe	1700	1700年
94	cafe	1700	1700年
95	cafe	1700	1700年
96	cafe	1700	1700年
97	cafe	1700	1700年
98	cafe	1700	1700年
99	cafe	1700	1700年
100	cafe	1700	1700年

参考文献: 1) 『ウィーンのカフェ』(宇野研究室 2007)に基く作成。2) 『ウィーンのカフェ』(宇野研究室 2007)に基く作成。3) 『ウィーンのカフェ』(宇野研究室 2007)に基く作成。4) 『ウィーンのカフェ』(宇野研究室 2007)に基く作成。5) 『ウィーンのカフェ』(宇野研究室 2007)に基く作成。6) 『ウィーンのカフェ』(宇野研究室 2007)に基く作成。7) 『ウィーンのカフェ』(宇野研究室 2007)に基く作成。8) 『ウィーンのカフェ』(宇野研究室 2007)に基く作成。9) 『ウィーンのカフェ』(宇野研究室 2007)に基く作成。